



東京支部学生会 学生会報 第22号
Student Journal 2017

特 集

『学生員の就職活動』

一般社団法人 電子情報通信学会
東京支部学生会

電子情報通信学会(IEICE)



東京支部学生会

メンバー募集中!



私たちと一緒に電子情報通信学会を盛り上げましょう!

東京支部学生会の情報は

こちらから



Twitter(アカウント)



Facebook(アカウント)



ホームページ



● 学生会Q&A ●

Q: 学生会ってどんなことをするの?

A: IEICE学生会は、電子情報通信学会
学生員の活動を盛んにし、かつ学生員
相互の親睦を盛んにすることを目的に
活動しています。

主な活動内容

研究発表会の運営

見学会・講演会の企画・実施

他支部との交流

学生会報の作成

etc...

Q: 学生会に参加するメリットって?

A: 学生だけで大規模な運営・企画が
できるので、貴重な経験ができます!
また、多くの大学の学生員と一緒に
なって活動するので、交友関係を広め
られます。

Q: どれくらいの頻度で活動するの?

A: 年に事業報告を行う運営委員会が4
回ある他、事業グループ毎の企画の準
備・運営があります。各事業の詳しい
活動内容については、ホームページを
ご覧ください。

総勢16校、57名で
活動しています。

気になった方は…

IEICE 東京支部 学生会

で検索! 🔍

※HPに事業内容等の詳細や、学生委員の活動を通しての感想が書いてあります。

～参加申し込み・問い合わせ先～

電子情報通信学会 東京支部事務局

shibu@tokyo.ieice.org (03-3433-6691)

申し込みの際は、下記の項目をお書きください。

- タイトルに「東京支部学生会参加申し込み」
- 参加人数、お名前
- 所属大学、学科学部、学年

電子情報通信学会 東京支部学生会 学生会報 第 22 号 目次

平成 28 年度東京支部運営委員・学生会運営委員・学生会顧問一覧	... 3
幹事校代表挨拶（巻頭文）	
	上條 弘貴（東海大）... 5
幹事団顧問の挨拶	
	濱本 和彦（東海大）... 6
特集①：平成 28 年度東京支部学生会事業紹介	... 7
幹事団	
	和高 拓也（拓殖大）... 8
学生会報	
	太田 亮祐（神奈川工科大）... 8
見学会	
	北村 拓也・真鍋 敦（群馬大）... 9
講演会	
	荒井 和輝（都立産技高専）... 10
研究発表会	
	香西 優（千葉工大）... 11
S C I	
	福谷 友宏（横浜国大）... 12
特集②：学生就職活動記	... 13
編集後記	... 18

平成 28 年度東京支部運営委員

(敬称略・順不同)

支部長	川添 雄彦	日本電信電話	委員	藤井 雅弘	宇都宮大
次期支部長	伊丹 誠	東京理科大	委員	郷 健太郎	山梨大
庶務幹事	眞田 幸俊	慶大	委員	濱本 和彦	東海大
庶務幹事	有吉 正行	日本電気	委員	池田奈美子	日本電信電話
会計幹事	大高 明浩	日本電信電話	委員	臼井 健	KDDI総合研究所
会計幹事	中山 正敏	三菱電機	委員	大野 光平	明大
委員	筒口 拳	日本電信電話	委員	木村 雄一	埼玉大
委員	今田 美幸	日本電信電話	委員	末田 欣子	日本電信電話
委員	道下 尚文	防衛大	委員	高橋 健志	情報通信研究機構
委員	丸山貴志子	日立	委員	檜橋 祥一	NTTドコモ
委員	劉 江	早大	委員	大澤 新吾	群馬大
委員	朝永 博	富士通研	委員	常光 康弘	拓殖大
委員	佐々木 稔	茨城大			

以上 25 名

平成 28 年度東京支部学生会運営委員

(敬称略・順不同)

委員長	上条 弘貴	東海大	委員	阿部 水樹	日大	委員	松村 太郎	都立産技高専
副委員長	大前 寛尚	東海大	委員	北村 拓也	群馬大	委員	大澤 千尋	都立産技高専
書記	大山 晃平	東海大	委員	真鍋 敦	群馬大	委員	嶋村 優眞	明大
委員長補佐	木田 行彦	東海大	委員	齊藤 彩	日本女子大	委員	安良岡 優	明大
委員	平本 和己	東海大	委員	岡田 雅江	日本女子大	委員	傳田 渉	明大
委員	和高 拓也	拓殖大	委員	會田 詩織	日本女子大	委員	鹿嶋 亮佑	明大
委員	服部 元磨	拓殖大	委員	香西 優	千葉工大	委員	古屋 翔大	明大
委員	上田 健斗	拓殖大	委員	海老慎太郎	千葉工大			
委員	杉田 幸一	拓殖大	委員	谷川 悠樹	千葉工大			
委員	福谷 友宏	横浜国大	委員	中島 悟	千葉工大			
委員	佐久間義友	横浜国大	委員	増田 圭亮	千葉工大			
委員	野井 優希	横浜国大	委員	西山 哲央	上智大			
委員	倉持 春聖	東京工科大	委員	朝倉 啓太	上智大			
委員	米田 嘉宏	東京工科大	委員	石田 勝晃	上智大			
委員	岡井凜太郎	防衛大	委員	杉山 滉一	上智大			
委員	平坂 健太	防衛大	委員	村山 巧	千葉大			
委員	後藤 和正	防衛大	委員	永田 雄大	千葉大			
委員	太田 亮祐	神奈川工科大	委員	関口 高穂	東京都市大			
委員	檜原裕一郎	神奈川工科大	委員	間山 京将	東京都市大			
委員	杉山 友記	神奈川工科大	委員	小田中 啓	東京都市大			
委員	井上 孝重	神奈川工科大	委員	中村 啓太	東京都市大			
委員	横山 彩	早大	委員	中村 哲也	東京都市大			
委員	大塚 正誉	早大	委員	永野 智彦	東京都市大			
委員	鈴木 陽登	早大	委員	荒井 和輝	都立産技高専			
委員	杉田 和貴	日大	委員	福岡 政大	都立産技高専			

以上 57 名

平成 28 年度東京支部学生会顧問

(敬称略・順不同)

顧問	野澤 昭雄	青学大	顧問	鎌倉 浩嗣	千葉工大
顧問	横田 浩久	茨城大	顧問	小林 一哉	中央大
顧問	荒川 臣司	茨城高専	顧問	小舘 亮之	津田塾大
顧問	熊谷 毅	宇都宮大	顧問	河崎 雅人	帝京科学大
顧問	清水 隆志	宇都宮大	顧問	松浦 基晴	電通大
顧問	平岡 隆晴	神奈川大	顧問	野村 英之	電通大
顧問	塩川 茂樹	神奈川工科大	顧問	藤井 威生	電通大
顧問	元木 誠	関東学院大	幹事	濱本 和彦	東海大
顧問	阿部 清彦	関東学院大	顧問	川原 圭博	東大
顧問	弓仲 康史	群馬大	顧問	永田 明德	東京工科大
顧問	加藤 毅	群馬大	顧問	黒川 弘章	東京工科大
顧問	重野 寛	慶大	顧問	田中 晶	東京高専
顧問	田中 敏幸	慶大	顧問	山岸 昌夫	東工大
顧問	篠原 克幸	工学院大	顧問	吉野 隆幸	東京電機大
顧問	大平 昌敬	埼玉大	顧問	岡野 好伸	東京都市大
顧問	池口 徹	東京理科大	顧問	高野 邦彦	都立産技高専
顧問	鯨井 政祐	埼玉工大	顧問	柴崎 年彦	都立産技高専
顧問	三好 匠	芝浦工大	顧問	横井 健	都立産技高専
顧問	武藤 憲司	芝浦工大	顧問	田中 聡久	東京農工大
顧問	相馬 隆郎	首都大	顧問	藤沢 匡哉	東京理科大
顧問	田川 憲男	首都大	顧問	佐伯 勝敏	日大
顧問	下村 和彦	上智大	顧問	黒岩 孝	日大
顧問	小林 学	湘南工科大	顧問	大貫進一郎	日大
顧問	花山 英治	職業大	顧問	木許 雅則	日本工大
顧問	杉山 賢二	成蹊大	顧問	小川 賀代	日本女子大
顧問	高見 一正	創価大	顧問	亀井 利久	防衛大
幹事	常光 康弘	拓殖大	顧問	中村 僚兵	防衛大
顧問	大竹 敢	玉川大	顧問	李 磊	法政大
顧問	山崎 浩一	玉川大	顧問	井家上哲史	明大
顧問	関屋 大雄	千葉大	顧問	本間 聡	山梨大
顧問	伊與田光宏	千葉工大	顧問	田中 良明	早大
顧問	佐波 孝彦	千葉工大	顧問	河野 隆二	横浜国大

以上 64 名

平成 28 年度学生会報巻頭言

学生会運営委員長

上條 弘貴

このたびは、学生会報を手にとっていただき誠にありがとうございます。

電子情報通信学会東京支部学生会は、学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦を図ることを目的に、電子情報通信学会東京支部の下部組織として平成 7 年度に設立され、今年度で 21 周年を迎えました。設立以来多くの学生に参加いただき、今年度の東京支部学生会は、所属校 16 校、総勢 57 名で活動を行っております。東京支部学生会では、学生のために何ができるかを学生自身が考え、「研究発表会」、「講演会」、「見学会」など様々なイベントを企画、実施しているほか、東京支部以外の他支部の学生会組織との連携・就職活動へ向けたセミナーの開催などのイベントも行っており、活動・交流の幅は広がりつつあります。

学会は、自らの研究の成果を外部に発信するとともに、他者との交流を深め、知見を得る場であると思っています。学生会では、より良い未来の実現の為に学術の発展を持って貢献するという学会の理念の下、「研究発表会」、「講演会」、「見学会」の他、各種イベント等を企画してまいります。今後の社会、学会を担っていく学生の皆様のお役に立てるよう、「自らの研究を発信し、他者と関わりを持って切磋琢磨できる場」を提供していきたいと考えておりますので、活用していただければ幸いです。

本誌は、多くの皆様に支えられ 22 回目の発行となりました。本誌では、東京支部学生会の各事業について紹介しております。読者の皆様が東京支部学生会の活動に興味を持っていただければ幸いです。最後に日頃から多大なご支援を頂いている電子情報通信学会東京支部の方々、学生会の顧問の先生方、学生会活動にご協力を頂いた関係各位、この学生会報を手にとっていただきご覧になっている方々に心よりお礼を申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 1 月吉日

学会，そして学生会の活動に参加すること

東海大学 情報通信学部 情報メディア学科

濱本 和彦

東京支部学生会顧問幹事を仰せつかっております，東海大学の濱本です。多くの皆様のご協力のおかげで，東京支部学生会の活動は年々活発になっております。心より感謝申し上げます。この場を借りて顧問として一言ご挨拶させていただきます。

皆さんの「学会」との最初の出会いはいつだったのでしょうか？おそらく，研究室に配属になり，卒業研究をスタートして，これまでの研究を調査するために先行研究の論文を読む，その時に「学会」というものを意識されたことと思います。それでは，その時の「学会」と自分自身の距離はどれくらいだったのでしょうか？きっと遠い存在，自分が直接関わることはない世界，という距離感ではなかったかと思います。ところが，これを読んでいる多くの方は，論文を読む側ではなく，論文を発表する側，つまり論文を読まれる側に立っているのではないかと思います。

研究とは，未知，抽象，理想などを具体的に検討して実現することで，その成果は公に発表することで初めて認められます。その公の場の代表的な場所が学会です。その意味で，みなさんは既にご自身の研究を世に問うて，質疑という評価を受けて，「研究」の形を完成させたこととなります。そしてそれは，研究に対して社会的責任をもつことを意味するとともに，皆さん自身の大いなる成長を意味することでもあるのです。是非，自信に，誇りに思ってもらいたいと思います。

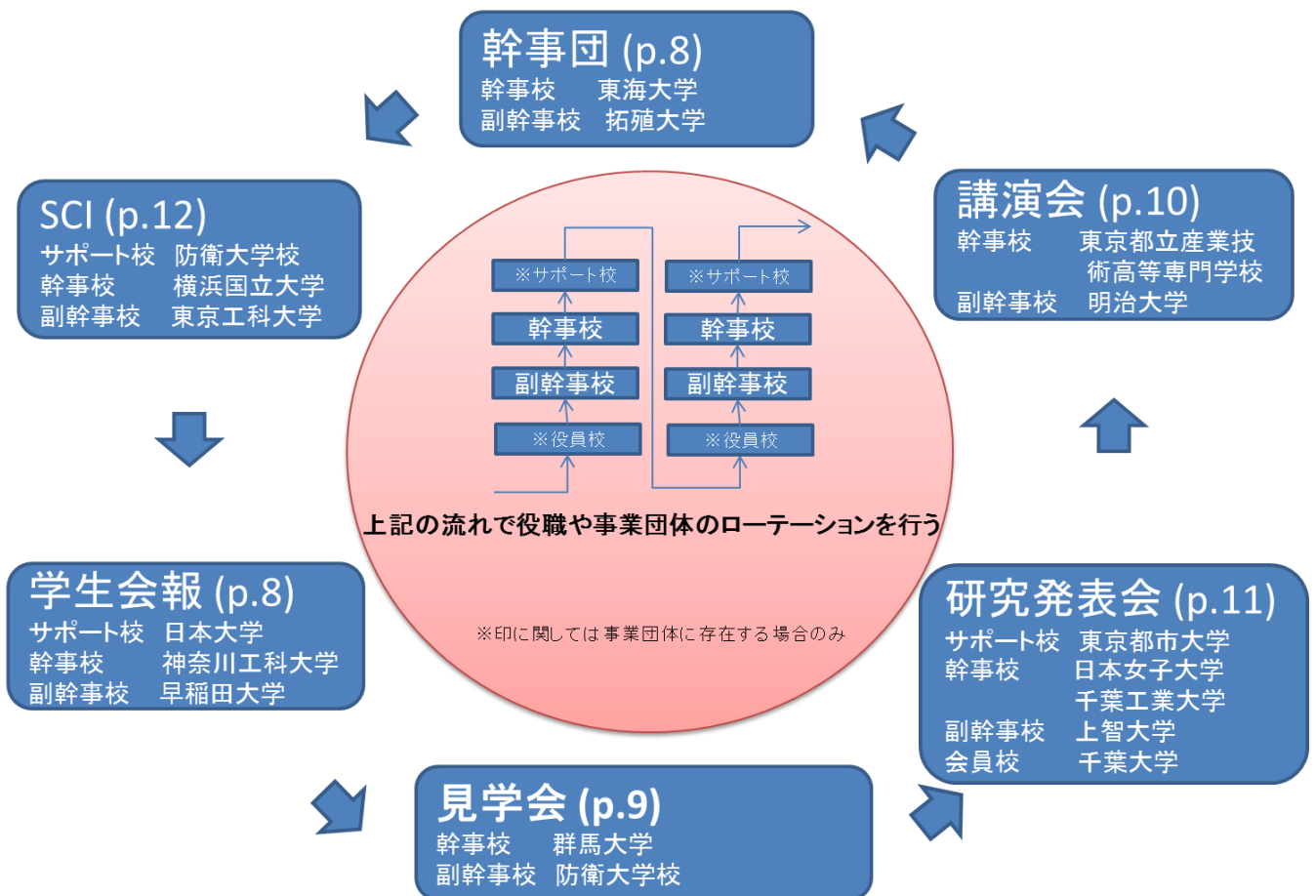
そしてさらに，遠い，自分とは直接関係が無いと思っていた「学会」という場が，実は，みなさんの成長をサポートする場である，ということも意味します。学会で自身の研究成果を公に発表するために，実験を繰り返し，分析評価を行い，何度も論文を書き直し，発表リハーサルを行ったことと思います。発表本番では，質疑応答がさらにみなさんの成長を促したことでしょう。このような「学会」に，もっと直接関わる機会，研究発表とは異なる視点からみなさんの成長をサポートしてくれる機会，それが「学生会」です。

学生会では，他大学や高専の同世代の仲間と，見学会，講演会，研究発表会，会報作成などの企画運営を行います。これらの活動は学会本体の活動とほぼ同じです。社会の縮図です。これを学生時代に学生だけで経験することは将来みなさんが出会うであろう問題や困難に何らかの方向性を与えてくれるはずです。そして何より，他大学・高専の，専攻や分野が異なる仲間ができること，これは何物にも代えがたい人生の宝物になるはずです。研究や専門に関する視野が広がるだけでなく，プライベートに関しても影響を受けることがあるでしょう。学生時代のこうした出会いは，様々なしがらみを抜きに一生続けていけるとても大事な人間関係です。学生会という場を通じて，豊かな学生生活そして将来を手に入れてもらえたらとても嬉しく思います。

特集①

平成 28 年度 東京支部学生会事業紹介

東京支部学生会には 16 校が参加しており、6 つの事業団体に分かれ、役職に就いています。
ここでは、今年度の各事業団体の所属校と、活動について紹介します。



幹事団グループ

幹事団グループでは、各事業グループが円滑に活動できるよう、全体の取りまとめを行っております。学生会運営委員会では、幹事団が指揮をとり、各事業グループの活動報告および意見交換を行い、今後の活動方針を決定します。

新しい事業や制度を提案したり、各事業グループのサポートを行ったりなど、学生会を支える立場として、皆積極的に活動しています。

(文責：拓殖大学 和高拓也)



(学生会運営委員会での取りまとめの様子)

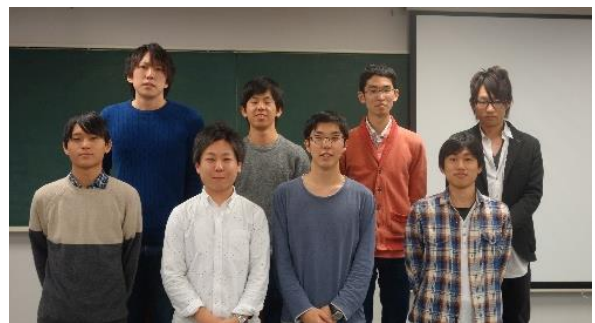
メンバー

幹事校：東海大学

上條 弘貴, 大前 寛尚,
大山 晃平, 木田 行彦,
平本 和己

副幹事校：拓殖大学

和高 拓也, 服部 元磨,
上田 建斗, 杉田 幸一



(幹事団メンバー集合写真)

学生会報グループ

学生会報グループでは、各事業団の紹介記事や学生会が開催するイベント、各分野の特集論文、学生員の就職活動についてのアンケート結果等の特集記事を掲載した学生会報誌を毎年発行しています。

学生会報誌を通して学生のみなさんに学生会の存在・活動内容を知っていただき、興味をもってもらえると幸いです。今後もよりよい学生会報誌を発行していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

(文責：神奈川工科大学 太田)

メンバー

幹事校： 神奈川工科大学

太田 亮祐, 井上 孝重
杉山 友紀, 檜原 祐一郎

副幹事校： 早稲田大学

大塚 正誉, 鈴木 陽登, 横山 彩

サポート校：日本大学

杉田 和貴, 安倍 水樹



見学会グループ

活動概要

我々、見学会 A グループは情報社会における最先端技術に関して直接学び・触れ合うことを目的に、研究所や企業の方々のご厚意のもと、IEICE 会員・学生会員、学生向けに見学会を開催しています。

今年度の実施内容

見学先: 国立研究開発法人情報通信研究機構本部

日程: 2016 年 9 月 7 日 (水)

見学時間: 13:30~15:00

見学内容

- 1.NICT 紹介ビデオ (15 分)
- 2.展示室案内
- 3.ネットワークセキュリティ技術の研究紹介
(インシデント分析センター「NICTER」)
- 4.時空標準技術の研究紹介
(日本標準時の決定・維持・供給システム)
- 5.電磁波センシング技術の研究紹介
(航空機搭載合成開口レーダ「Pi-SAR2」)
*各 20 分程度



感想

当日は 6 名の参加がありました。事後アンケートでは、日々の生活を支えている技術を見ることができ、当たり前のように受け取っている標準時間が非常に高度でしっかりとした管理の上に成り立っていることに驚いたなどの意見がありました。また、においが出るテレビや擬似的に触感を得られる装置などの新しい技術体験の人気が高かったです。

今回の見学では、普段見ることのできない情報通信分野に関する研究に触れ、改めて日本の研究機構の技術力の高さを認識しました。

快く開催をお引き受け頂きました国立研究開発法人情報通信研究機構本部の皆様へ心より感謝いたします。

メンバー

幹事校: 群馬大学

北村 拓也, 真鍋 敦

副幹事校: 防衛大学校

岡井 凜太郎, 平坂 健太, 後藤 和正

(文責: 群馬大学 北村, 真鍋)

講演会グループ

活動概要

我々講演会グループは、学生会の主旨である電子情報通信学会学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦をはかることを目的に、関連分野や話題の技術等を主題とした講演会の企画・開催を行っています。

今年度の実施内容

題目：智能化されたネットワークに繋がる世界

講演者：曾根高 則義 氏

(早稲田大学 客員教授、サイバーフィジカルシステム研究所 所長、テクノメディアラボ 代表取締役)

日時：平成 28 年 11 月 12 日 (土) 13 : 30 ~

会場：東京都立産業技術高等専門学校

品川キャンパス 情報センター講義室

感想

今年度の講演会では「智能化されたネットワークに繋がる世界」という題で近年注目を集めている人工知能(AI)とIoT(Internet of Things)という2つの技術についてそれぞれが結びつくような世界が実現するのかというのをご講演頂きました。



曾根高様のご講演の様子

前半ではそもそも人口知能やIoTとはどんなものなのかということを紹介して頂きました。そして後半では常にネットワークに繋がっていることが前提であるIoT等のシステムにおいてそのシステム形態を利用状況等に応じて変化させるポリモルフィック(多形構造)ネットワークについてご紹介頂きました。この話ではIoTにおいて欠かせない移動体通信におけるトラフィック管理を具体例として説明して頂きました。このシステムの形態を変化させるという自律性をシステムの幅広い要素、具体的に言えば通信におけるレイヤも跨いだ要素に適用するという話が非常に印象的かつこれからの研究や技術開発においては一つの要素だけでなく周囲のレイヤについても見渡すことができる能力が必要なのだと改めて感じました。

最後に、ご多忙中な貴重なご講演を頂きました曾根高則義様に深く御礼申し上げます。

メンバー

幹事校：都立産業技術高等専門学校

荒井 和輝、福岡 政大

松村 太郎、大澤 千尋

副幹事校：明治大学

鹿嶋 亮佑、安良岡 優、古屋 翔大

嶋村 優真、傳田 渉



講演会終了後の集合写真

(文責：都立産技高専 荒井)

研究発表会グループ

活動概要

本グループは、毎年 2 月末～3 月上旬頃に、電子情報通信分野を専攻している学生を中心に集めた研究発表会を企画・実行しています。

我々は、この研究発表会にご参加頂いた学生の皆様が、他校の学生や教授および企業でご活躍されている方々との交流を通して、学術的な見識を深める場を設けることを目的として活動しています。

昨年度の活動内容について

多数の参加者の取りまとめを行うため、本グループでは一年をかけて準備を行っています。活動内容としては、会場の事前視察、研究発表会におけるプログラムの編成委員会があります。以下に、昨年度研究発表会の概要を示します。

開催日 : 平成 28 年 3 月 5 日 (土)

会場 : 東海大学 高輪キャンパス

特別講演 : 柴田随道 氏

講演内容 : 専門を極めることと新しい価値を考え出すこと

今年度の研究発表会の概要

今年度は、以下の内容で、第 22 回研究発表会を開催する予定です。

開催日 : 平成 29 年 3 月 4 日 (土)

会場 : 東海大学 高輪キャンパス

特別講演 : 関屋大雄 氏

講演内容 : みんなで男女共同参画について考えよう！

メンバー

幹事校 : 日本女子大学・千葉工業大学
齊藤、岡田、會田、香西、海老谷川、中島、増田

副幹事校 : 上智大学
朝倉、西山、石田、杉山

会員校 : 千葉大学
村山、永田

サポート校 : 東京都市大学
関口、間山、小田中、永野中村啓太、中村哲也
(文責 : 千葉工業大学 香西 優)



SCI グループ

SCI (Student Community of IEICE) は学生相互の理解を深めることを目的として設立された事業グループです。SCI では主に以下の3つの事業に取り組んでおり、2016 年度に行った各事業内容を紹介しします。

1. 親睦会の運営
2. 学生会ホームページや SNS の運営
3. 他支部の学生会との交流事業

1. 親睦会の運営

SCI では1年に4回行われる各運営委員会後に親睦会を開催しています。それ以前は、せっかく運営委員会に各大学の学生が集っているにもかかわらず委員会終了後はすぐに解散していたため、この機会を利用して SCI の理念を実現するべく学生間の交流を促進するため、昨年度から親睦会を実施しており毎回20名前後の学生に参加いただいています。



親睦会の様子

メンバー紹介

- ・ 幹事校：横浜国立大学
福谷友宏、佐久間義友、野井優希
- ・ 副幹事校：東京工科大学
倉持春聖、米田嘉宏
- ・ サポート校：防衛大学
岡井凜太郎、平阪健太、後藤和正

2. 学生会ホームページや SNS の運営

SCI では学生会の Twitter、ホームページ、Facebook を用いて学生会委員以外の学生・社会人の方に、学生会の活動やイベント情報を配信しています。ぜひ御覧ください。



Twitter



ホームページ



Facebook

3. 他支部の学生会との交流事業

この事業は SCI が設立されたきっかけとなった事業です。2011年に設立され、東北大学の学生とイベントを共催する予定でしたが東北大震災により中止となってしまいました。その後は広報業務に注力していましたが、昨年度から本格的に活動を再開し、今年度の IEICE 総合大会にて再び東北大学とイベントを共催する運びとなりました。

東北大学の学生方には、第2回運営委員会に東京までお越しいただき親睦を深めたり、Skype を通してミーティングを行っています。

SCI はこの活動を全国の支部の交流や、課題解決につながるビジョンをもって今後も精力的に続けていきます。
(文責：福谷)



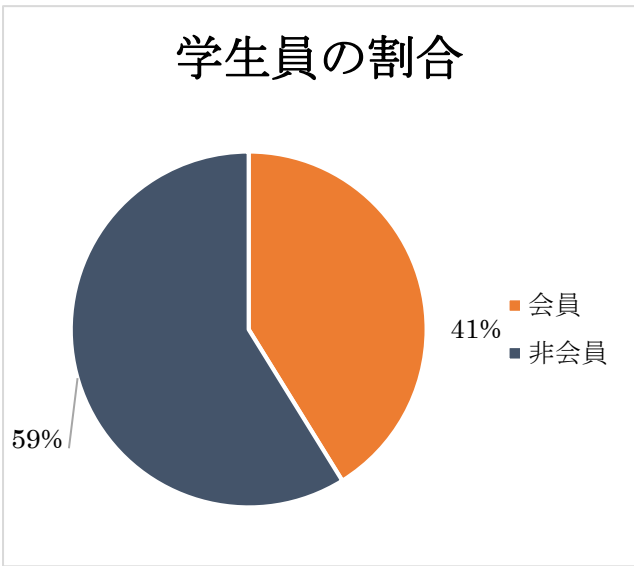
特集②

東京支部

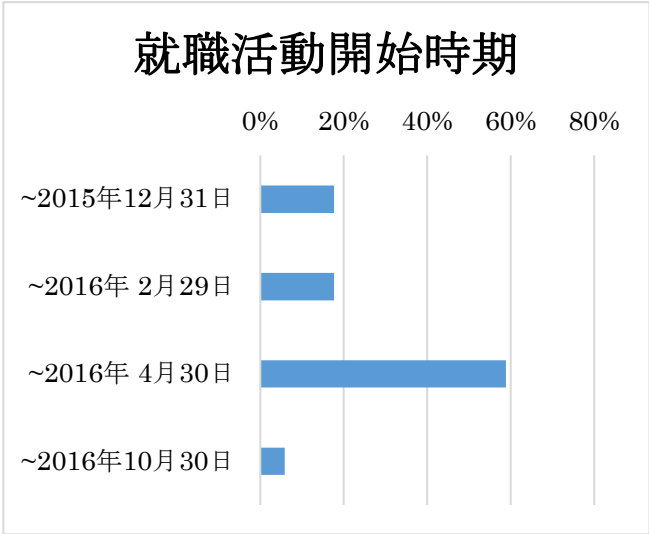
学生就職活動記

前年度に引き続き就職活動を終えた学生を対象にアンケートを実施しました。
本特集記事ではそのアンケート結果を記載しております。
来年度の就職活動を迎える方の参考になれば幸いです。

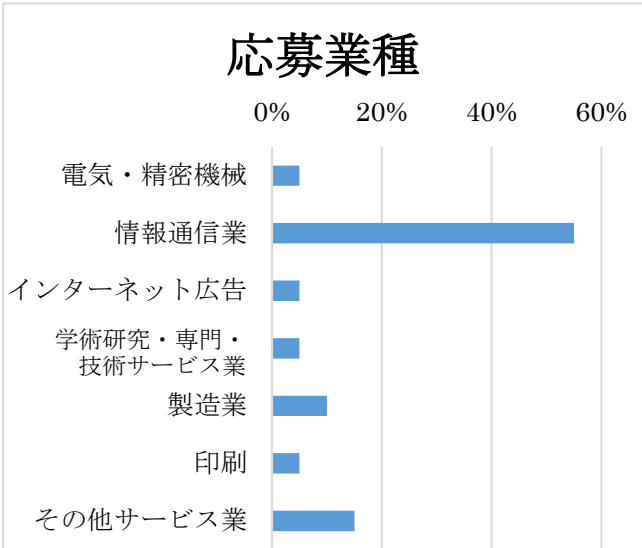
就職アンケート結果



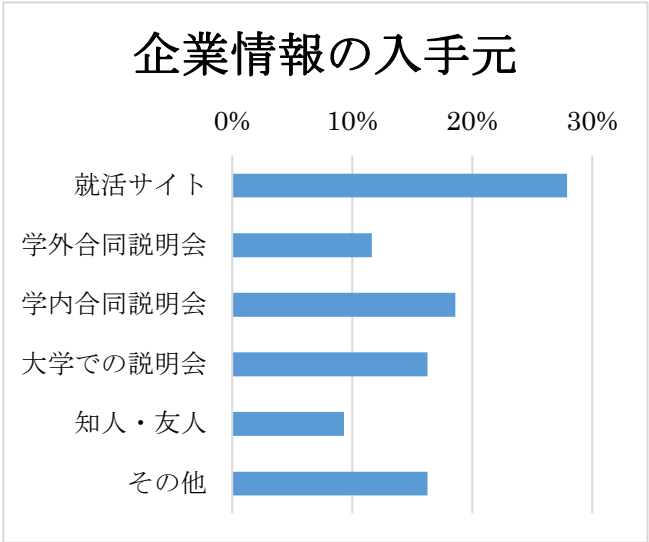
アンケートに答えてくださった方の 41%が電子情報通信学会の学生員でした。男女比は男性が 76%、女性が 24%で、大学生が 53%、大学院生が 47%でした。



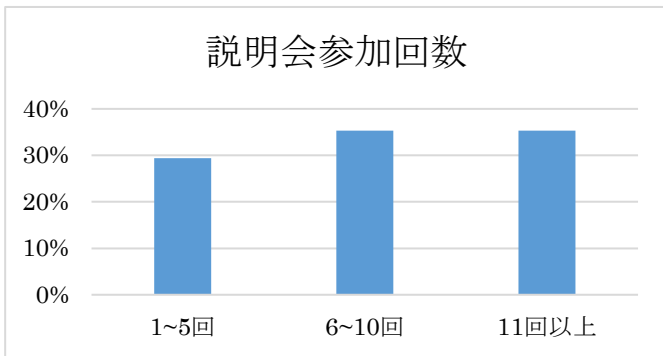
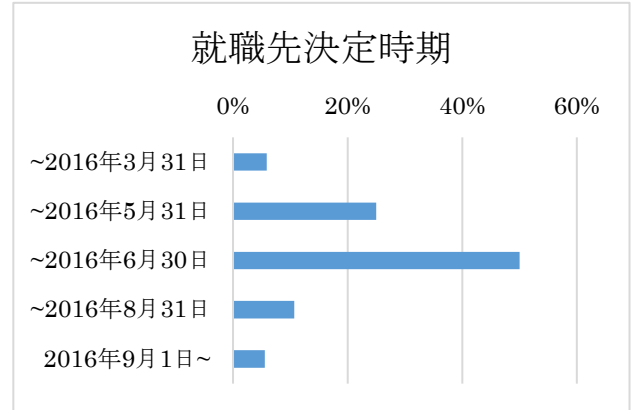
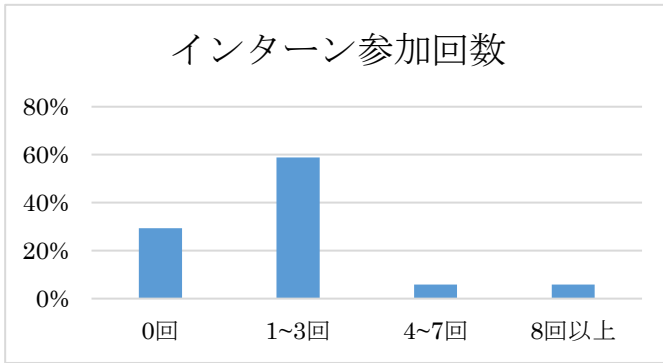
前年度に続き就活開始を始めた人が最も多かったのは 3 月 1 日でした。それ以前に開始したという人は夏期や冬期のインターンシップに参加された方、就活セミナーに参加された方が多かったようです。



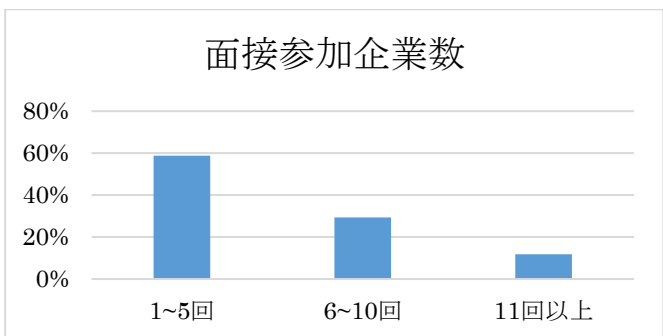
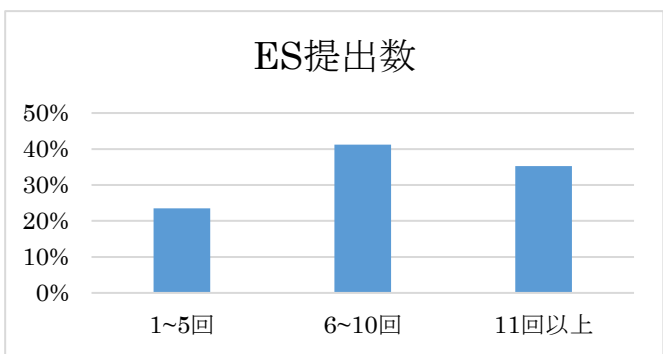
アンケートに回答していただいた方の約半数が情報通信業、いわゆる SE 系を応募されたようです。次いで多かったのはその他サービス業です。これはコンサルタントや設計等の技術や情報を提供する職に応募した方が多かったようです。



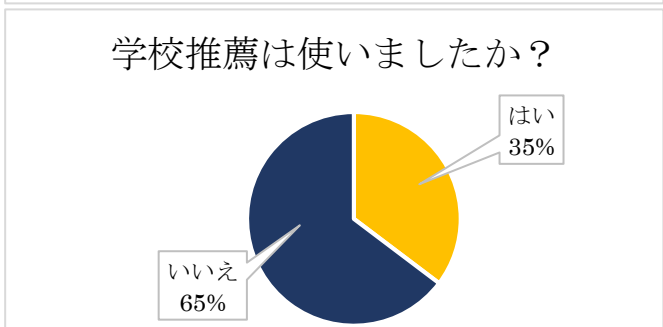
企業情報の入手元として最も多かったのは就活サイトでした。最近ではエントリーの受付を就活サイトで行っている企業が多いため、現在の就活において就活サイトの利用は必須のようです。また、学内での合説や単独の説明会は学外で行われる大規模な合説よりも効率的等の理由で、参加した方が多いようです。



インターンに行った回数、説明会参加回数、ES提出数、面接参加企業数、学校推薦の使用の有無は左の図のようになりました。約70%の人がインターンに参加されたようです。説明会に参加した回数及びESを提出した回数は6~10回の割合が若干多い結果となりました。11社以上の説明会参加した人の中には50社以上の説明会に参加したという人も。いろいろな会社を見て、視野を広げていくことで、新たな出会いがあると思います。また、ESを提出した回数の11回以上でも多い人だと40社近くに提出した人がいたようです。また、面接に参加した企業数は6割近くの人が1~5社という結果でした。学校推薦は35%の人が使用した結果となりました。



上の図は就職先が決まった時期の結果と学校推薦の使用の有無です。就職決定時期が最も多かったのは6月1日~6月30日の1ヶ月で、半数以上の人々が6月30日までに就職先を決定していたようで、早めに就職先を決めた方が多いことがわかりました。



次のページからは記述による回答をいただいたアンケートの結果となります。

・ **就職活動に入る前に何か特別な取り組みをしましたか？**

- ・大学の就職課の面接対策講座, グループディスカッション等の就活セミナーに積極的に参加
- ・四季報で毎年の採用人数の確認
- ・インターンシップへの参加や OB/OG 訪問

・ **就職活動を終えて、大切だと感じたことは何ですか？**

- ・自分軸を持つこと。熱意
- ・自己分析、業界分析、企業分析
- ・自信を持ってハキハキ話すこと。
- ・相手の聞きたいことに対してきちんと答えること
- ・運と自信
- ・就活前からの企業研究、そして自分が会社で何をしたいかを見つけること

・ **後輩にアドバイスしたいことを記入してください**

- ・早め早めが非常に大事。就活準備に早すぎる、やりすぎるは存在しない。
- ・自己分析は徹底してやること
- ・単位が足りなくても、内定はもらえる。
- ・就活が不安なのはみんな同じなので、怖気付くのではなく、ハキハキと明るく会話することが大事です。
- ・落ちてめげない

面接は模範解答ではなく自分の素を出した方が良いです。

・ **特に印象に残っている面接内容があれば教えてください**

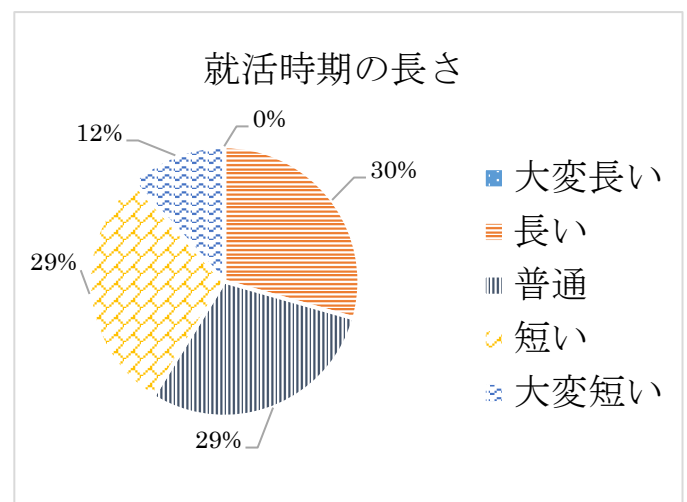
- ・約 100 枚のカードからランダムにお題を選び、そのお題から連想される話をその場で 2 分間スピーチする
- ・自分が会社に入ったときのやってみみたい案件とその詳細を教えてください。案件に対す

る予算や動員人数、加えてその案件を通してどれくらいの利益が見込めるのか論理的に述べてください。というのが印象に残っている。

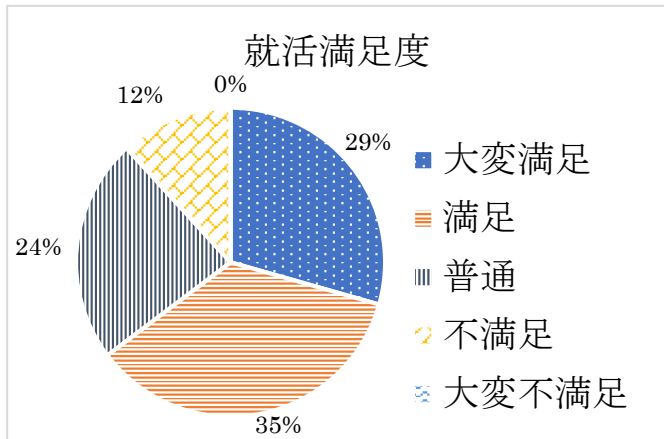
・ **就職活動中、何を軸にして取り組みましたか？**

- ・仕事内容、福利厚生が自分に合っているか
- ・自分のやりたいことができるか
- ・事業内容、自分の取り組んでみたいこと
- ・社会への貢献度
- ・アドバイスを素直に受け止めること

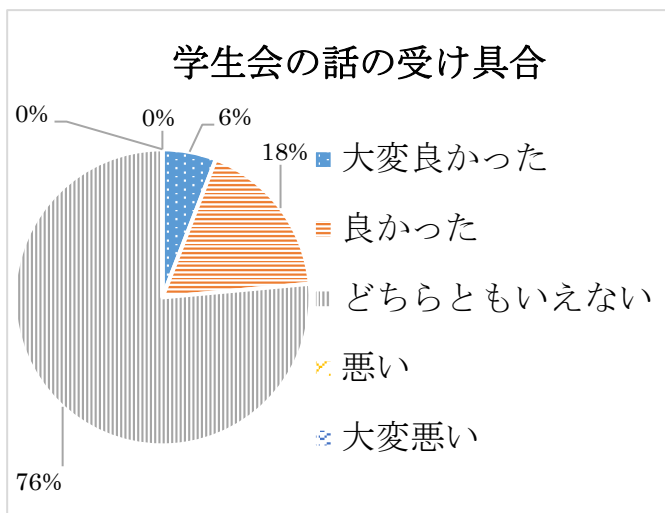
以上が記述にて回答していただいた結果です。最後に総合的なアンケートを 5 段階でご回答いただいたのでそちらの結果をご紹介します。



どちらかという、短いと感じる方が多かったようです。すぐに希望の内定を頂けた方や、苦労した方など、具体的な活動期間は個人で異なりますが、研究やアルバイトとの並立という点で、就職活動に充てられる時間が短かく、もっと腰を据えて就職活動に取り組みたかったという人が多かったのではないのでしょうか。



6 割以上の方が、自身の就職活動に満足しているようです。求人倍率の向上や、多くの会社が採用人数を増やしたこともあり、今年度の就活では多くの方が納得のいく結果を得ることができたのではと思いました。



どちらともいえないを回答した方の多くは学生会の話をしていない方で、学生会の話をした方の全員が良い印象を受けたようです。就活では精力的に取り組んだエピソードを話す機会が多いですが、学生会での経験を話すことは、意欲的な姿勢や他の方との差別化など、多くのアピールのきっかけになるのではないのでしょうか。

総評

前年度に引き続き「学生就職活動記」として特集記事を組ませていただきましたがいかがでしたでしょうか。みなさんの気になる情報、興味深い情報を得ることはできたでしょうか。

現在の日本では新卒という肩書が重要視されている面があるので気負ってしまうところもあるかもしれませんが、就職氷河期と呼ばれる時代が終わったこともあり、できるだけ早い段階から自分を見つめ直し将来を考えれば納得のできる就職活動につながると思いき、それが就活満足度で 6 割以上の方が満足しているという結果にあらわれているのではないかと感じました。

また、グラフにはしていませんがクロス集計の結果、ES や面接で学生会の話をした方の全てが就活満足度において満足・大満足と回答されていました。学生会での仕事は無報酬ではありますが、電子情報通信学会の学生会という組織に参加し、他大学の学生や先生方、企業の方と連携をとるため大きな責任が伴います。そのため、学生会での活動は就職活動において重要視されている積極性や責任感の面で評価されたのではないのでしょうか。

最後になりましたが、特集記事を読んでいただきありがとうございました。これから就職活動に取り組まれる皆様にとって本記事が有意義なものになれば幸いです。

(文責：太田)

編集後記

東京支部学生会 学生会報 第 22 号はいかがでしたでしょうか。

今年度も各事業団の紹介と学生員の就職活動をテーマに据えて作成しました。学生会でそれぞれの事業部がどのようなことをしているのか、他の大学の人たちがどのように就職活動を行っているのかをお伝えできたのであれば幸いです。また、この会報は鋭意的に活動してきた学生会運営委員の皆様の方跡を記録に残したいと思い作成しました。事業団紹介の中表紙でも触れたように、学生会では現在 6 つの事業団に分かれて合計 50 名以上の学生が活動しております。学生会の活動の全てをご紹介するというわけにはいきませんが、学生会では多くの学生が一丸となって考え、協力し、一つのことを成し遂げているということを知っていただければ本会報の役割は十分に果たせたと言えます。そして、これまで活動してきた皆様が何年後かにこの冊子を見て懐かしんでいただければ、本会報の役割は十二分に果たせたと言えるでしょう。

末筆ながら、本会報を作成するにあたりご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。

また、学生会運営委員の皆様、学会事務局のご担当者様のご協力のおかげで本会報を作成することができました。ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

太田 亮祐



平成 29 年 2 月 24 日発行

編集：太田 亮祐（所属：神奈川工科大学）

発行 一般社団法人電子情報通信学会 東京支部学生会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

Tel (03) 3433-6691 Fax (03) 3433-6659

E-mail: shibu@tokyo.ieice.org

<http://www.ieice.org/tokyo/>

